



山形県感染症発生動向調査

平成28年第15週(4月11日~4月17日)

山形県感染症情報センター(山形県衛生研究所)
 TEL.023-627-1109, FAX023-641-7486
 URL <http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/>
 2016年4月19日 発行

<定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

※ :警報レベル

 :注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県) 第1~15週
	第14週	第14週	第15週	増減	第14週	第15週	増減	第14週	第15週	増減	第14週	第15週	増減	第14週	第15週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(47)			(20)			(5)			(10)			(12)			
インフルエンザ	34672 7.02	490 10.21	509 10.83	△	246 12.30	212 10.60	▼	22 4.40	46 9.20	△	114 11.40	148 14.80	△	108 8.31	103 8.58	△	12868
小児科定点 (定点医療機関数)		(29)			(13)			(3)			(6)			(7)			
RSウイルス感染症	456 0.14		1 0.03	△								1 0.17	△				38
咽頭結膜熱	716 0.23	8 0.27	11 0.38	△	4 0.31	5 0.38	▲		1 0.33	△	2 0.33	5 0.83	△	2 0.25		▼	179
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	5820 1.85	116 3.87	174 6.00	▲	75 5.77	115 8.85	▲		6 2.00	△	26 4.33	34 5.67	▲	15 1.88	19 2.71	△	2950
感染性胃腸炎	16861 5.35	161 5.37	167 5.76	▲	63 4.85	61 4.69	▽	8 2.67	11 3.67	▲	55 9.17	49 8.17	▽	35 4.38	46 6.57	△	3737
水痘	1086 0.34	5 0.17	2 0.07	▼	4 0.31	1 0.08	▼							1 0.13	1 0.14	▲	206
手足口病	74 0.02	1 0.03		▽	1 0.08		▽										11
伝染性紅斑	1061 0.34	45 1.50	43 1.48	▽	9 0.69	14 1.08	△	1 0.33	1 0.33		10 1.67	5 0.83	▽	25 3.13	23 3.29	▲	978
突発性発しん	1413 0.45	27 0.90	13 0.45	▽	5 0.38	5 0.38					11 1.83	4 0.67	▽	11 1.38	4 0.57	▽	262
百日咳	46 0.01																3
ヘルパンギーナ	68 0.02																
流行性耳下腺炎	2568 0.81	88 2.93	97 3.34	▲	5 0.38		▽	7 2.33	6 2.00	▽	66 11.00	76 12.67	▲	10 1.25	15 2.14	△	928
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	13 0.02																
流行性角結膜炎	395 0.57		1 0.13	△					1 1.00	△							12
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	319 0.68	1 0.10	1 0.10		1 0.25	1 0.25											6
クラミジア肺炎	6 0.01																4
マイコプラズマ肺炎	156 0.33	1 0.10	2 0.20	▲		1 0.25	△							1 0.33	1 0.33		37
細菌性髄膜炎	14 0.03																
無菌性髄膜炎	20 0.04																4

<全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
結核	患者	1				
	無症状病原体保有者				1	※第14週追加報告分。
	疑似症患者	1				※第14週追加報告分。
つつが虫病	患者	1				
侵襲性肺炎球菌感染症	患者			1	1	※第14週追加報告分。肺炎球菌ワクチン接種歴:不明2件。
水痘(入院例)	患者	1				※第14週追加報告分。水痘ワクチン接種歴:不明。

<通信欄>

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

< 定点把握感染症 報告患者数 年齢別 >

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ	1	11	32	35	47	35	71	35	35	41	32	49	12	4	
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79	80歳～									合計
	29	12	9	14	1	4									509
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	1														1
咽頭結膜熱		1	5	4			1								11
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1		7	9	18	30	34	12	15	20	7	16	1	4	174
感染性胃腸炎	3	11	35	24	22	9	10	8	12	10	7	10		6	167
水痘	1			1											2
手足口病															
伝染性紅斑		1	3	2	7	6	8	2	4	2	3	5			43
突発性発しん		7	6												13
百日咳															
ヘルパンギーナ															
流行性耳下腺炎			3	5	12	17	20	8	13	4	4	10		1	97

< 平成28年3月 月報 >

2016年4月19日 更新

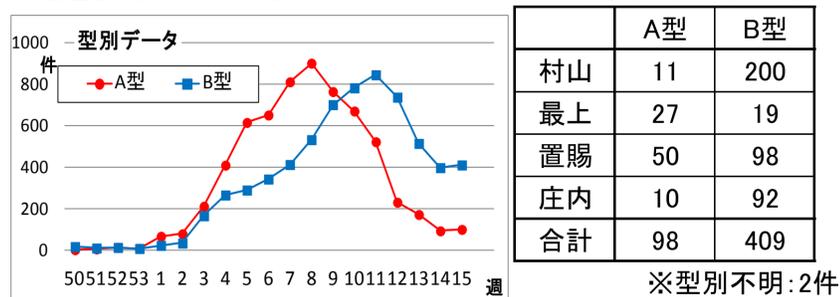
疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～3月	
	2月	3月	2月	3月	2月	3月	2月	3月	2月	3月		
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	20	18	4	4	11	14	3		2		55
	定点当り	2.00	1.80	1.00	1.00	11.00	14.00	1.50		0.67		
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	2	6		3		2	2	1			12
	定点当り	0.20	0.60		0.75		2.00	1.00	0.50			
尖圭コンジローマ	報告数	2	7		2	1		1	2		3	11
	定点当り	0.20	0.70		0.50	1.00		0.50	1.00		1.00	
淋菌感染症	報告数	1	2	1	1						1	4
	定点当り	0.10	0.20	0.25	0.25						0.33	
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	4	5	1	1	1	1			2	3	18
	定点当り	0.40	0.50	0.25	0.25	1.00	1.00			0.67	1.00	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	14	27	9	6	1	1	1	3	3	17	62
	定点当り	1.40	2.70	2.25	1.50	1.00	1.00	0.50	1.50	1.00	5.67	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数											
	定点当り											

<トピックス>

【インフルエンザ情報】

インフルエンザの第15週の県全体の定点当たり報告数は10.8人で、第8週から継続して警報レベルとなっています。
(警報開始基準値:30人 警報終息基準値:10人 注意報基準値:10人)

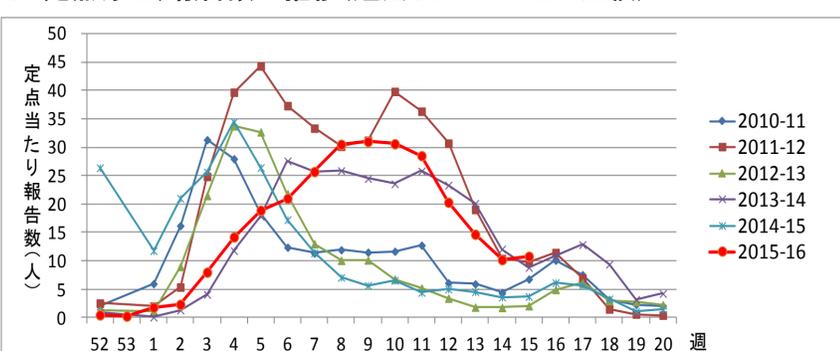
1 迅速診断キットによるインフルエンザウイルスの陽性件数(第15週)



2 集団発生状況(県健康福祉企画課まとめ 第15週)

村山地区:4施設(保育所1、小学校3)
最上地区:1施設(保育所1)
庄内地区:2施設(保育所2)

3 定点あたり報告数の推移(過去5シーズンとの比較)



【つつが虫病情報】

今週、県内で今年初のつつが虫病の報告がありました。つつが虫病は、例年5月～7月に多く報告されています。今年は過去10年で最も早い時期での初報告となりました。

つつが虫病とは

ツツガムシ(ダニの一種)に刺されて、高熱や発疹などの症状が出る病気です。季節的には春から初夏にかけて多く発生し、秋にも発生がみられます。

【症状】

発熱(38～40℃)、発疹、ツツガムシ幼虫の刺し口が見られることが特徴です。これらの症状は、ツツガムシ幼虫に刺されてから5～14日後にみられます。

【予防法】

- ツツガムシは、田畑、山林、やぶ、河川敷、草原などに生息しています。これらの場所に立ち入るときは、次のようなことを心がけることが大切です。
- ①長袖、長ズボン、長靴、手袋などを着用し、素肌をできるだけ露出しない。
 - ②ダニ忌避剤、防虫剤を衣服に散布する。
 - ③なるべく草むらに直接座らない。
 - ④帰宅したら早めに入浴し、ツツガムシ幼虫を洗い流す。

ツツガムシの居そうな場所に立ち寄った後、5～14日後に発熱した場合、まずつつが虫病を疑うことが大切です。早期に医療機関を受診し、適切な治療を受けましょう。

※つつが虫病についてのパンフレットはこちらからダウンロードできます
<http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/>(衛生研究所HP)